

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	利用者の在宅生活をサポートしていくための取り組みを行っている
	内容	「生活基盤型通所介護」を掲げ、通所介護事業所の立場から利用者の在宅生活をサポートしていくための取り組みを行っている。例えば、時間延長サービスである。急な用事などで送迎時間に帰宅が間に合わないというような家族の声に応え、毎日、時間延長サービスを提供している。その他、有料でのヘアカット、マニキュア（無料）、無料歯科検診、見学希望者の送迎サービス、買い物支援サービス（スーパーのネットサービスを職員と一緒に通所中に買い物手続きを行い、翌日に自宅に配送される仕組み）である。
2	タイトル	入浴枠の制限を撤廃し、利用者の希望の入浴回数に可能な限り対応している
	内容	最も高い利用者ニーズである入浴サービスを充実させるため、入浴枠の制限を撤廃した。利用者の希望の入浴回数を可能な限り対応するやり方に変更している。入浴は不要であるという利用者以外は全て対応することができており、週4回の入浴の方もおられる。
3	タイトル	居宅介護支援事業所等の関係機関（者）との密な連携に努めている
	内容	居宅介護支援事業所約20件に対して、事業所責任者等3名が手分けをして、直接、サービス実績票・「目標達成報告書」・「プラチナロード便り」（広報誌）・プログラム表・献立表等を手渡ししている。その際に利用者個々の状況等も口頭で伝えている。ホームページでは職員のブログ・ツイッターを掲示し、ケアマネージャーがパンフレットや利用申込書をダウンロードできるようにするなど、情報提供にも工夫を凝らしている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	利用者が自由に何でも希望や要望を話せる場の提供が望まれる
	内容	利用者調査では外出が楽しかったようで、これからも「～に行きたい」などの希望が寄せられていた。事業所責任者も茶話会などの利用者の意向を聴取する仕組みづくりの構築が課題と考えている。定期的に利用者が自由に何でも希望や要望を話せる場の提供が望まれる。
2	タイトル	職員間の支援のバラツキがないよう手引書等の整備、その活用が望まれる
	内容	介護技術力の向上、業務の標準化を重要課題とし、職員個々との面談やマニュアルの作成などに取り組んでいる。しかし、職員の自己評価で最も評点が低かった項目が「サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしているか」であった。今後、職員の支援のバラツキがないよう手引書等の整備、その活用が望まれる
3	タイトル	コミュニケーションを活発化し、チームワーク力のさらなる向上を期待する
	内容	当事業所は今年度4月に区から指定事業者として運営管理を始めた。そのため事業所責任者、副責任者以外の全職員が新規採用である。毎月の全体会議では法人・事業所方針を職員へ伝えているが、その浸透に苦慮している。幹部層は法人・事業所ミッションを粘り強く伝えているが、さらに自由に何でも言い合える場をつくり出し、コミュニケーションを活発化し、チームワーク力のさらなる向上を期待する。